

大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	25	大学等名	玉川大学
テーマ	テーマ I・II 複合型		

【総括評価】

A：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

【コメント】

<優れている点>

- ・大学独自の改革と本事業をうまく接続し、大学改革を進めている。全学部によるアクティブ・ラーニング (AL) の事例報告会の実施や、その内容を反映させた教員調査の実施、また、学生の主体的参加が調査によって確認されていることなどは評価できる。
- ・学長のリーダーシップの下、教学部長を委員長とする「教育再生加速委員会」の下でシステマティックな実施体制が構築され、補助期間終了後も安定した運営が期待され、評価できる。また、FD との連携も取れていることも評価できる。
- ・評価体制については、ミクロレベル、マクロレベルでの改善サイクルが準備され、外部評価も実施されている。また、テーマ I・II とともに各種のエビデンスを収集し、PDCA サイクルへの貢献がなされていることは評価できる。

<改善を要する点>

- ・AL の体系化を目指した『アクティブ・ラーニングハンドブック』の刊行が平成 31 年度まで延期されていることや、ルーブリックに関する教員調査の回答者数が少なく、実態把握ができていないとは言えないこと、また、活用している教員が 40 名 (27%) しかないことなどは、誠実な実態把握という点では評価できるが、改善が必要である。
- ・本事業において重要となる AL 科目に関する授業外学修時間がそもそも測定されていないことや、学生の授業外学修時間が目標の 3 分の 1 に留まるなど、最も重要となる指標での達成度が低いことについては、改善が必要である。特に、学生の学修時間に関わる指標の改善については、難しい課題ではあるが、これらの点を改善するための実施体制、PDCA サイクルによる改善のあり方についても検討することが必要である。
- ・補助期間終了後の計画については、学外との連携が明示的ではなく、また、資金確保の具体的な計画が立っているわけではないことについては、検討・改善が必要である。
- ・本取組における大学教育改革は基本的にスループット、アウトプットを対象としたものであるが、入口 (入学) さらには入試といった観点からの検討を進めることも必要である。